

改訂版『ムラブリ語テキスト』

伊藤 雄馬 (京都大学・日本学術振興会)

二文字屋 脩 (首都大学東京・日本学術振興会)

キーワード: ムラブリ語、オーストロアジア語族、テキスト

要旨

本稿は坂本比奈子元麗澤大教授が編集した『ムラブリ語テキスト』の改訂を目的とする⁽¹⁾。このテキストは、唯一のムラブリ語テキスト集であり、またムラブリ語の音源も付属していることから、資料価値の高いものである。しかしその一方で、このテキスト集は、テキストを提示する際に言語学の分野において用いられるグロス表記がなされていないという点で、少なからず資料的価値が損なわれている。そこで本稿では、『ムラブリ語テキスト』に記載される九四四例の例文の内、音源のある八八例の例文を改めて書き起こし、筆者らの調査と分析に基づいたグロス表記と翻訳を付け加えた、改訂版テキストとして提示する。

1. はじめに

本稿では、坂本(2005)に提示されているテキストの内、録音の存在する部分を筆者らが書き起こし、グロス表記と翻訳を改めて提示することを目的とする。2章ではムラブリについて概説する。3章ではムラブリ語について概説する。4章ではテキストと、その表記などについて説明する。5章では改訂版のテキストを提示する。

2. ムラブリについて

タイ北部には少数民族が多数暮らしており、彼らは一般的に「チャオ・カオ」(「山地民」の意)と呼ばれている。しかしそのほとんどが焼畑耕作を伝統的な生業としてきた人びとであるのに対し、唯一、狩猟採集を伝統的な生業としてきた人びとがいる。タイでは「ピー・トン・ルアン(Phi Tong Luang)」(=「黄色い葉の精霊／お化け」)の名で知られ、全人口が約四〇〇人と極めて希少なムラブリがそれである。

自称を「ムラ/mla?/」(=「人間」)とし、対外的な自称を「ムラブリ/mla? bri?/」(=「森の人」)とする彼らは、タイだけでなく、ラオス・サイニャブリー県にも確認されており(cf. Chazée 2001)、また最近では中国とラオスに挟まれたミャンマー・シャン州の最東部にもムラブリがいるとの報告もある(cf. The Lahu National Development Organization 2005)。何れにしても世界で最も人口が希少な少数民族の一つであると言える。タイ政府の公式見解では、ムラブリは二〇世紀前半にラオスからタイに移住してきた「後住の」少数民族とされ

ている。しかし当時の中央政府はタイ北部の国境地域を管理するシステムを持っておらず、また一八八六年に、あるタイ人エリートによって書かれた文章には「ピー・パー」(=「森のお化け」)としてムラブリが登場することからも、ムラブリは少なくとも一九世紀後半から、タイとラオスの国境を中心とした広い地域で生活してきたと思われる。

ムラブリは言語的にはティン (H'tin) やクム (Khmu) に近いとされているが、彼らが古くから低地タイ社会へ融合・同化してきたのに対し、ムラブリは比較的高い社会文化的自律性を保ってきた。それは、ムラブリがタイ北部一帯に広がる森で狩猟採集に依った遊動生活を送り、部外者との接触を極力避けてきたからである。しかし遊動狩猟採集民として生きてきた彼らも、第二次世界大戦後に急速に加速した大規模な森林消失によって生活場所が失われ、徐々にラオスと国境を接するタイ北部の東部に追いやられていった。そして一九八〇年代前半に始まったアメリカ人宣教師の宣教活動や、一九八〇年代中頃に始まった政府主導の開発プロジェクト、二〇〇〇年代後半に始まった王室プロジェクトによって、現在ではナン県とプレー県に合わせて五カ所ある定住村にて、賃金労働や換金作物栽培、エスニック・ツーリズムに依った定住生活を送っている (cf. Nimonjiya forthcoming; 図 1)。

3. ムラブリ語について

3.1. 言語学的系統

ムラブリ語の言語学的系統は、オーストロアジア語族 (Austroasiatic family)、北方モン・クメール諸語 (Northern Mon-Khmer languages)、クム語派 (Khmuic branch) に属すると紹介されることが多い (cf. Rischel 1995: 22, 坂本 2007: 45, Sidwell 2009: 108)。しかし、この分類、特にクム語派への分類については、昔から幾度も問題視され、未だ決着をみていない (cf. 坂本 2011: 48, Smalley 1963: 191, Tongkum 1992: 44)。

この問題に関して Rischel (2007) は、ムラブリ語とティン語との間に音対応が認められることを初めて明らかにした。これによって、ムラブリ語とティン語との間に言語学的系統関係が示唆されたが、問題も残されている。基礎語彙、形態論、統語論、文法範疇において、ムラブリ語とティン語は異なる特徴を多く示す点である。この違いを説明するのに、Rischel (2007) は基層言語の存在などを考えているが、推測の域を出ていない。言語学的系統分類の問題は今後のムラブリ語研究において最も大きな課題のひとつであると言える。

3.2. 社会言語学的状況

Rischel (2007: 26) によれば、ムラブリ語はイントネーションと語彙によって三つの方言、すなわち A 方言、B 方言、C 方言に下位分類できる。A 方言と B 方言はタイ国のナン県とプレー県、C 方言はラオスのサイニャブリー県に住むムラブリによって話される (図 1)。

二〇一三年の段階で、各方言の話者数は A 方言が約四〇〇人、B 方言が五人、C 方言が十三人である⁽²⁾。しかし、この方言分類にはまだ検討の余地がある。例えば坂本 (2001) は、Rischel の分類では同じ A 方言に属するとされる方言話者から B 方言の語彙を観察したこと

を報告している。

話者数からも分かるように、ムラブリ語は存続の危機に瀕する、いわゆる危機言語である。世界中の言語に関する情報を掲載する国際 SIL のエスノログによれば、危機の度合いを示す拡張危機言語度 (Expanded Graded Intergenerational Disruption Scale) で、十三段階あるうちの三番目に危機に瀕している「瀕死の状態 (moribund)」にムラブリ語は分類されている。

3.3. 類型論的特徴

基本構成素順は SV (自動詞主語-自動詞)、AVO (他動詞主語-他動詞-目的語)、側置詞は前置型 (preposition)、名詞句は基本的に N-Adj (名詞-修飾部) の主要部先行型 (head-initial) である。ただし、所有表現は類型論の予想に反して GN (所有格形式-被所有物) の順である (cf. 坂本 2007: 50)。

音韻論的には、無声流音や無声鼻音、声門化破裂音や声門化わたり音を持つ点が特徴的である。声調は持たず、固定的な強勢を示し、リズムは弱強格を好む。また、鼻音、流音が音節格を担う副音節 (minor syllable) が存在する。

形態論的には孤立的である。接頭辞、接中辞、重複形が観察されるが、その多くは化石化しているようである。形態素構造は単音節のものが優勢であり、ついで副音節を含む一音節半語 (sesquisyllabic word) の数が多い。

人称代名詞には単数・双数・複数の系列がある。双数形が複数形よりも無標である点が特徴的である (伊藤 2013)。

その他の類型論的特徴として、類別詞 (classifier) の存在、受身を表す構文の欠如、動詞連続構文 (serial verb construction) の多用が挙げられよう。

4. 資料について

本稿で改訂を行うテキストは、坂本 (2005) の『ムラブリ語テキスト』である。方言分類を行った Rischel (2007: 26) によれば、このテキストが扱う方言は A 方言である。

このテキスト集は、九四四例のムラブリ語文が提示されており、その全てにタイ文字表記、音声表記、英語翻訳、日本語翻訳が記載されている。記載されている例文は、New Tribes Mission⁽³⁾ によって収集されたテキストをもとに、坂本が実地調査によって確認、録音したものである。

このテキスト集には CD が付属しており、テキスト番号 856 から 944 の例文が録音されている⁽⁴⁾。この音源に登場するムラブリ語話者はウィーラ氏 (Weera Srichawpa)⁽⁵⁾ である。録音された場所はファイ・ホーム村 (Ban Huai Hom) である (図 1 を参照)。

4.1. 書き起こしについて

本稿で提示するテキストは、坂本 (2005) に付録されている CD 音源を筆者らがまず書き起こし、それをムラブリ語母語話者に確認してもらったものである。そのため、坂本 (2005)

とは異なる形式が観察された例も少なくない。例えば、「物」を表す形態素は坂本 (2005) では/grua/であるが、筆者らの調査では/grwɔ/である。このような差異は体系的でないため、聞き間違い、個人差、また分析の違いに由来すると考えられる。本稿では煩雑になることを防ぐため、形式の違いを指摘することは避ける。

また、この音源ではひとつの例文に対して二回ずつの発話が録音されている。ただし数例について、一回目の発話と二回目の発話で、音声、形態、構文レベルにおいて異なる例文が観察された⁽⁶⁾。異なる発話が観察された例文については、テキストに記載されている表現を優先して採用する。

日本語訳については、筆者らの調査に基づく解釈から翻訳を与えたため、ほとんどが坂本 (2005) とは異なるものとなっている。その多くは形態素の解釈の違い (例えば、/poʔ/を坂本は「洗面器」と解釈するが、筆者らは「皿」と解釈するなど) であり、その場合はグロス表記を見れば訳が異なる理由を確認できるため、説明は省略した。ただし、形態素の解釈以外による違い、例えば文法的な理由による違いが表れる場合は文末注にて説明を加えることとする。なお、テキストの解釈に必要なムラブリ語の文法については伊藤 (forthcoming) を参照されたい。

4.2. 表記について

坂本 (2005) と筆者らの音韻解釈に大きな違いは認められないため、本稿では筆者らによる音韻解釈に基づいて表記する。ただし、表記方法についてはいくつか変更を加えてある。単独子音と解釈されるべき有気音や声門化音を、坂本 (2005) では子音連続と同じ方法で表記してあったのを、本稿では補助記号で表記し、子音連続の表記方法と区別した。例えば、両唇無声有気音を坂本 (2005) は/ph/と表記するが、これは子音連続ではないため、本稿では/p^h/と表記する。また、形態素内の音節境界、接辞・小辞・複合語境界、節・文境界⁽⁷⁾をテキスト上に記号で明記した。本稿で使用する記号・略号については、本稿末尾の記号・略号一覧を参照されたい。

ムラブリ語の音素は以下の通りである。丸括弧で囲った音は強勢のない音節のみに観察される。なお、流音、無声鼻音は単独で音節 (副音節) を成すことがあり、その際は成節性を示す補助記号で表す (例文 869 の「薪」/^hŋ.keʔ/、例文 913 「畑」/ɾ.map/など)。

[頭子音]/p, p^h, b, ^ʔb, t, t^h, d, ^ʔd, c[^ht͡ɕ], j[d͡z], k, k^h, g, ʔ; m, ^hm, n, ^hn, ɲ, ^hɲ, ŋ, ^hŋ; r, (^hr), l, ^hl; s, h; w, y[j], ^ʔw, ^ʔy[^ʔj]/, [末子音]/p, t, c, k, ʔ; m, n, ɲ, ŋ; r, r^h, l, l^h; h; w, y[j], y^h[ç]/, [母音]/i, e, ε, a, ɔ, o, u, ʊ, ɤ, ʌ, (ə)/。

4.3. 例文番号と表題について

例文番号は坂本 (2005) に対応させてある。今回扱うテキストは、その内容からいくつかのまとまりに分けることが可能である。本稿では便宜上、筆者らが作成した表題をまとまり毎に付け加えてある。

5. 改訂版テキスト

ウィーラ、家を作る

- 856 ^hnam pər.nah/ ʔi= wi.raʔ ku= ʔbaw// ʔi= wi.raʔ ku=
 年 永い さん= ウィーラ (PN) PROG= 若い さん= ウィーラ (PN) PROG=
^hɲuh ni= ʔi= ta= maC di= gɛŋ//
 居る LOC= さん= オジ= マット (PN) DI= 家
 以前、ウィーラがまだ若かった頃、マットおじさんの家に住んでいた⁽⁸⁾。

- 857 ləŋ= gət/ ʔi= wi.raʔ ʔec ʔi= ʔɔy ʔak= myɣ//
 DAT= 後ろ さん= ウィーラ (PN) 取る さん= オイ (PN) ART= 妻
 その後、ウィーラはオイを妻にした。

- 858 ʔa= ^hɲuh ʔak= myɣ sin- ɲaʔ/ ʔi= wi.raʔ si= ʔɣh gɛŋ
 PRF= 居る ART= 妻 様子- DEM2 さん= ウィーラ (PN) 欲しい= 作る 家
^hmɛʔ//
 新しい
 妻と暮らすことになったので、ウィーラは新しい家を作ってよかった。

- 859 ʔi= wi.raʔ jak ni= briʔ bih lam bih dər.t^haŋ
 さん= ウィーラ (PN) 行く LOC= 森 切りつける 木 切りつける 竹 (の一種)
 ʔec dər.t^haŋ ʔɣh p^hak//
 取る 竹 (の一種) 作る 外装
 ウィーラは森に行き、木を切り竹を切り、その竹を使って壁を作った。

- 860 ʔak= myɣ ʔec cok di= poh dər.t^haŋ ʔɣh p^hak//
 ART= 妻 取る 鉋 DI= 割る 竹 作る 外装
 妻は鉋で竹を割り壁を作った。

- 861 ʔi= wi.raʔ ʔec p^hak pɣr gɛŋ//
 さん= ウィーラ (PN) 取る 外装 囲う 家
 ウィーラは壁で家を囲った。

- 862 ʔa= pɣr ʔa= lac/ ʔi= wi.raʔ luŋ ʔak= myɣ saŋ jak ni=
 PRF= 囲う PRF= 終わる さん= ウィーラ (PN) と ART= 妻 再び 行く LOC=
 briʔ jak ʔec sə.ləʔ maʔ ^hmɔʔ kən.dəʔ//
 森 行く 取る ヤシの葉 与える 葺く 屋根
 囲い終わると、ウィーラと妻は再び森に行き、ヤシの葉を取ってきて屋根を葺いた。

- 863 ʔa= ʔɣh kən.dəʔ ʔa= lac/ ʔa= ^hɲuh ni= gɛŋ ^hmɛʔ hik= muan//
 PRF= 作る 屋根 PRF= 終わる PRF= 居る LOC= 家 新しい ととも= 満足
 屋根を作り終わり、新しい家に住んでとても満足だった。

よそ者

- 864 kwɑr kɔ.bɔ= mak ^hɲuh ni= briʔ//
 よそ者 NEG1= 好き 居る LOC= 森
 よそ者は森に住むのが好きではない。
- 865 ki.be kwɑr mak jak gwɛŋ mlaʔ ni= ʔi= ta=
 しかし よそ者 好き 行く 来る ムラブリ LOC= さん= オジ=
 bun.juun di= gɛŋ//
 ブンジューン (PN) DI= 家
 しかし、よそ者はブンジューンおじさんの村に住むムラブリを訪ねるのが好きだ。
- 866 dɔk di= lɛk/ kwɑr leh ma maʔ mlaʔ gruɣ//
 置く DI= 夜 よそ者 来る 来る 与える ムラブリ 物
 時々、よそ者はムラブリに物をあげにやってくる。
- 867 ma.nʌʔ/ leh kwɑr ma ^hmuʔ leh ləŋ= lək.tay bə.lak//
 先日 来る よそ者 来る 集団 来る DAT= 車 白
 先日、よそ者の一団が白い車からやって来た⁽⁹⁾。
- 868 jum+ɲʌʔ maʔ mlaʔ kuɣy k^ha.nom poʔ kɔk+wɣk
 3.PL(集団+DEM2) 与える ムラブリ バナナ 菓子 皿 コップ(パイプ+飲む)
 p^ha.hwɣʔ luŋ kwɛk//
 サロン用布 と 手斧
 彼らはムラブリにバナナ、菓子、皿、コップ、サロン用布、そして手斧をくれた。
- 869 mlaʔ hik= mak kwɛk ^hmɛʔ/ jak ʔɣh ^hɲ.keʔ hik= k^hom//
 ムラブリ とても= 好き 手斧 新しい 行く 作る 薪 とても= 鋭利
 ムラブリは新しい手斧が大好きだ。薪をとるのによく切れるからだ⁽¹⁰⁾。
- 870 mlaʔ ʔec wʌl gruɣ dɔk di= gɛŋ//
 ムラブリ 取る 帰る 物 置く DI= 家
 ムラブリはもらった物を自分たちの家に持って帰った。
- 871 ʔa= prem ʔa= kay/ kwɑr ma mlaʔ ʔa= leh ʔa= ʔday swɛʔ/
 PRF= 永い PRF= 永い よそ者 来る ムラブリ PRF= 来る PRF= 得る アナグマ
 mɔy ma k^hay mlaʔ//
 3.SG 来る 売る ムラブリ
 しばらくして、よそ者がムラブリを訪れた。彼はアナグマが獲れたので、ムラブリに
 売りに来たのだ⁽¹¹⁾。
- 872 mlaʔ ʔa= suu ʔa= ^hr.lah ʔa= tɛŋ ʔa= lac/
 ムラブリ PRF= 買う PRF= 解体する PRF= 配る PRF= 終わる
 ムラブリはそれを買って、解体し、分配し終わると、

873 dɔk cin swɛʔ ni= poʔ ^hmeʔ ni= kwɔr maʔ ma.nɔʔ//
置く 肉 アナグマ LOC= 皿 新しい REL= よそ者 与える 先日
アナグマの肉を、先日よそ者がくれた新しい皿に置いた。

874 ʔa= boŋ cin pa- tok mlaʔ suvɥ poʔ sam dɔk//
PRF= 食べる.肉 肉 CAUS- 尽きる ムラブリ 洗う 皿 再び 置く
肉を全て食べた後、ムラブリは皿を洗って再びしまった⁽¹²⁾。

熊を獲った話

875 mlaʔ hik= mak jak kwel^h pyaʔ+^ʔdɥ//
ムラブリ ととも= 好き 行く 狩る 大きな動物(大きな+INDF)
ムラブリは大きな動物を狩りに行くのがとても好きだ。

876 ʔi= ta= yoʔ luŋ ʔi= ta= la.na luŋ ʔi= ta= k^hiŋ
さん= オジ= ヨ(PN) と さん= オジ= ラナー(PN) と さん= オジ= キン(PN)
luŋ ʔi= ta= ^ʔdi jak kwel^h swɛʔ kə.lɥʔ pol^h//
と さん= オジ= ディー(PN) 行く 狩る アナグマ か 鹿
ヨおじさんと、ラナーおじさんと、キンおじさんと、ディーおじさんは、アナグマ、
または鹿を狩りに行った。

877 jum+nɔʔ kə.lɥ= jak myv+glɔŋ/ jak do= yoŋ//
3PL IPRF= 行く 妻+夫 行く だけ= 男
彼らは夫婦一緒にではなく、男だけで行った。

878 sɔŋ= lek =^hloy ʔa= kay/ jum+nɔʔ ʔa= wɔʔ//
二= 夜 =(プラス一) PRF= 永い 3.PL PRF= 帰る
三日(二日プラス一)経って、彼らは帰ってきた。

879 pol^h ^hlak/ swɛʔ ^hlak/ ki.be jum+nɔʔ ʔec wɔʔ bek//
鹿 ない アナグマ ない しかし 3.PL 取る 帰る 熊
シカもとれず、アナグマもとれなかったが、彼らは熊を取って帰った。

880 jum+nɔʔ ruŋ pər.tak maʔ pon= mlaʔ ŋam//
3.PL そこで 語る 与える 四= CL.人 聞く
そこで、彼らはたくさんの人に話して聞かせた。

881 ʔah+t^hɥŋ jak kwel^h mɔc pol^h ʔak= ʔuy luŋ ʔak= ʔew sɔŋ=
1.PL(1.DU+五) 行く 狩る 見える 鹿 ART= 女 と ART= 子 二=
klɔʔ =^hloy//
CL. 人以外 =(プラス一)

「私たちは狩りに行き、母鹿と子鹿の三頭(二頭プラス一)に出会ったんだ。」

- 882 ʔah+tʰɯŋ ba.kah peŋ məy/ ki.be ta= ʔdi di= kəl.col kreʔ
 1.PL 損なう 撃つ 3.SG しかし オジ= ディー (PN) DI= 肘 当たる
 lam/ peŋ kə.lay= kreʔ//
 木 撃つ IPRF= 当たる
 「私たちはその一匹を撃とうとしたが、ディーおじさんの肘が木に当たったので撃ち
 損じ、命中しなかった。」
- 883 ja= polʰ rɛʔ jak hik= gɛt/ bi.jɯ//
 CLC= 鹿 逃げる 行く とても= 速い INT
 「鹿の群れはとても速く逃げて行ってしまった、あーあ！」
- 884 ja= polʰ ʔa= rɛʔ kə.lay= prem/ leh bɛk gɔh//
 CLC= 鹿 PRF= 逃げる IPRF= 永い 来る DEM1
 「鹿の群れが逃げてから間もなく、この熊が現れたんだ⁽¹³⁾。」
- 885 ʔah+tʰɯŋ hik= kɾaw ʔdɔ//
 1.PL とても= 怖い SFP
 「私たちはとても怖かったんだぞ！」
- 886 ʔah+tʰɯŋ ki= dan rɛʔ//
 1.PL NEG2= 間に合う 逃げる
 「私たちは逃げるのに間に合わなかった。」
- 887 ʔah+tʰɯŋ tɔŋ ʔi= ta= ʔdi/ məh də.lay= peŋ bɛk//
 1.PL 言う さん= オジ= ディー (PN) 2.SG (義務)= 撃つ 熊
 「私たちはディーおじさんに言った、『お前が熊を撃つべきだ！』」
- 888 ʔi= ta= ʔdi ʔa= peŋ ʔa= kreʔ ʔak= glɯʔ bɛk ʔa= bɯl//
 さん= オジ= ディー (PN) PRF= 撃つ PRF= 当たる ART= 頭 熊 PRF= 死ぬ
 「ディーおじさんが撃ち、熊の頭に命中し熊は死んだ。」
- 889 ʔah+tʰɯŋ ʔec wɔl bɛk gɔh hik= nak// ʔah+tʰɯŋ hik= jə.ram//
 1.PL 取る 帰る 熊 DEM1 とても= 重い 1.PL とても= 疲れる
 「私たちはこの熊をもって帰った。とても重くてとても疲れたよ。」

子沢山のヤールおじさん

- 890 ta= yar mlaʔ sak+ʔəm.royʰ//
 オジ= ヤール (PN) ムラブリ 年寄り (休+子)
 ヤールおじさんは年寄りのムラブリだ。
- 891 ʔi= ta= yar pɯʔ ʔɛw hik= sɛʔ//
 さん= オジ= ヤール (PN) 持つ 子 とても= 多い
 ヤールおじさんは子供がたくさんいる。

892 məy bɛr pɛʔ pon tʰɤŋ tal gul tiʔ gayʰ/
 一 二 三 四 五 六 七 八 九
 一、二、三、四、五、六、七、八、九。

893 ʔak= ʔɛw hik= sɛʔ/ ʔa= ʔdɛ//
 ART= 子 ととも= 多い PRF= 本当
 本当に子沢山だ。

狩猟と蟹捕り

894 ta= mɔc ʔa= tʰɔr.kal/ ta= ka.cyɤ ʔa= tʰɔr.kal hŋuh ni=
 オジ= マット (PN) PRF 白髪 オジ= カチエ (PN) PRF= 白髪 居る LOC=
 gɛŋ
 家

マットおじさんはすでに白髪だ。カチエおじもすでに白髪だ。家において、

895 kɔ.bɔ= jak kwelʰ pyaʔ+ʔdɤ//
 NEG1= 行く 狩り 大きな動物
 大きな動物を狩りには行かない。

896 ʔak= ʔɛw yon ku= kɔ.bliŋ/ ma.kur= sak+ʔəm.royʰ//
 ART= 子 男 PROG= 若い まだ～ない= 年寄り
 息子は若く、まだ年寄りではない。

897 jum+ɲɔʔ hik= mak jak kwelʰ//
 3.PL ととも= 好き 行く 狩り
 彼らは狩りに行くのがとても好きだ。

898 ka.naʔ mlaʔ jak kwelʰ ŋay kɔ.lɤʔ polʰ/
 時 ムラブリ 行く 狩り 猪 か 鹿
 ムラブリが猪、または鹿を狩りに行くとき、

899 jak do= yon/ ʔec jak hŋ.kok peɲ pyaʔ+ʔdɤ//
 行く だけ= 男 取る 行く 銃 撃つ 大きな動物
 男だけで行き、銃を持って大きな動物を撃ちに行く。

900 ka.naʔ mlaʔ jak muɔ gayʰ/ yon kɔ jak/ ʔuy kɔ jak/
 時 ムラブリ 行く 遊ぶ 蟹 男 TOP 行く 女 TOP 行く
 蟹を捕るに行く時は、男も行くし、女も行くし、

901 nak+ʰluak kɔ jak/ nak+cron ʔ day//
 大人(人+成長する) TOP 行く 幼児(人+幼児) TOP 行く (可能)
 大人も行くし、幼児も行ける。

- 902 mlaʔ hik= mak boŋ gay^h// gay^h hik= jaʔ^h//
 ムラブリ とても= 好き 食べる. 肉 蟹 蟹 とても= 美味しい
 ムラブリは蟹を食べるのが好きだ。蟹はとても美味しいからね⁽¹⁴⁾。

ヨおじさんとヨおばさんとウアン

- 903 ya= yoʔ si= ʔɣh ɲɔk/ kwel^h ʔak= cwak kɔ.bɔ= mɔc//
 オバ= ヨ (PN) 欲しい= 作る バッグ 探す ART= 糸巻き NEG1= 見える
 ヨおばさんはバッグを作りたくて糸巻きを探したが見つからなかった。
- 904 ta= yoʔ ʔɣh cwak ^hmɛʔ maʔ ʔak= myɣ//
 オジ= ヨ (PN) 作る 糸巻き 新しい 与える ART= 妻
 そこでヨおじさんは新しい糸巻きを作り妻にあげた。
- 905 ta= yoʔ di= sa.taŋ ki= sɛʔ//
 オジ= ヨ (PN) DI= 金 NEG2= 多い
 ヨおじさんのお金は少なかった。
- 906 ta= yoʔ si= ʔday sui muak/ ki.be muak ŋam hik= beŋ//
 オジ= ヨ (PN) 欲しい= 得る 買う 帽子 しかし 帽子 美しい とても= 高価
 ヨおじさんは帽子を買いたかったが、きれいな帽子はとても高かった。
- 907 ʔi= ya= yoʔ ʔɣh ɲɔk ʔa= buɪ/ ʔi= ya= yoʔ jak k^hay
 さん= オバ= ヨ (PN) 作る バッグ PRF= 死ぬ さん= オバ= ヨ (PN) 行く 売る
 ɲɔk maʔ ʔi= ya= k^ham//
 バッグ 与える さん= オバ= カム (PN)
 ヨおばさんはバッグを作り終わった。ヨおばさんはバッグをカムおばさんに売りに
 行った⁽¹⁵⁾。
- 908 ta= yoʔ ʔec sa.taŋ ɲɔʔ jak maʔ ʔi= ʔuan/ tɔŋ ʔi=
 オジ= ヨ (PN) 得る 金 DEM2 行く 与える さん= ウアン (PN) 言う さん=
 ʔuan tɔŋ ʔa=
 ウアン (PN) 言う COMP=
 ヨおじさんはそのお金をウアンのところへ行って渡し、ウアンに言った、
- 909 meh jak ʔak= yiŋɲ muɪ.ʔum// meh jak sui maʔ læŋ= diŋ muak
 2.SG 行く ART= 町 明日 2.SG 行く 買う 与える DAT= 兄弟 帽子
 ŋam//
 美しい
 「お前は明日町に行くから、私 (兄) にきれいな帽子を買いに行ってくれ。」

- 910 diŋ kraʷ kwaɾ pa- t^huk.luak diŋ/ tʌŋ diŋ ʔak= ŋal hik=
 兄姉 恐れる よそ者 CAUS- 嘘つく 兄姉 言う 兄姉 ART= 値段 とても=
 beŋ//
 高価
 「私(兄)はよそ者に嘘をつかれるのが怖いんだ、私(兄)にとっても高価な値段を言うん
 じゃないかと。」
- 911 kwaɾ kɔ.bɔ= pa- t^huk.luak roy//
 よそ者 NEG1= CAUS- 嘘つく 弟妹
 「お前(弟)ならばよそ者に嘘をつかれない。」
- 912 mu.ʔun ta.kiʔ/ ʔi= ʔuan jak suu gruɣ// ʔi= ʔuan suu
 明日 朝 さん= ウアン(PN) 行く 買う 物 さん= ウアン(PN) 買う
 maʔ ləŋ= ʔi= ta= yoʔ muak bə.lak//
 与える DAT= さん= オジ= ヨ(PN) 帽子 白い
 翌朝、ウアンは買い物に行き、ウアンはヨおじさんに白い帽子を買いに行った。
- 913 ta= yoʔ t^haŋ ɾ.map ʔa= lac/
 オジ= ヨ(PN) 刈る 畑 PRF= 終わる
 ヨおじさんは畑を整地し終えた。
- 914 ɾ.map hik= ŋam hik= lwah//
 畑 とても= 美しい とても= 草原
 畑はとても美しい耕地となった。
- 915 ʔi= ʔuan maʔ ʔi= ta= yoʔ ʔak= muak//
 さん= ウアン(PN) 与える さん= オジ= ヨ(PN) ART= 帽子
 ウアンはヨおじさんにその帽子をあげた。
- 916 ta= yoʔ yik.yek// hik= mak sup muak h^hmeʔ//
 オジ= ヨ(PN) ONOM とても= 好き かぶる 帽子 新しい
 ヨおじさんはニコニコして、新しい帽子をかぶるのがとても気に入った。
- 917 ta= yoʔ tʌŋ law ʔi= ʔuan tʌŋ ʔa=
 オジ= ヨ(PN) 言う 伝える さん= ウアン(PN) 言う COMP=
 ヨおじさんはウアンに言った、
- 918 tal+gah/ diŋ t^haŋ di= ɾ.map ʔa= lac/ hik= jə.ram/ bi.jɣ//
 今日(日+DEM1) 兄姉 刈る DI= 畑 PRF= 終わる とても= 疲れる INT
 「今日、私(兄)は自分の畑を整地し終えてとても疲れたんだよ、あーあ！」
- 919 h^hniy.h^hnaɣ hik= jwal/ ray//
 草 とても= 抜きづらい INT
 「草がとても抜きづらくてね、ふー。」

親族関係

- 920 ?i= tu? di= jioŋ ?i= ta= k^ha.nom//
 さん= トウ (PN) DI= 父 さん= オジ= カノム (PN)
 トウの父は、カノムおじさんだ。
- 921 ?i= wi.ra? di= jioŋ ?i= ta= maC//
 さん= ウィーラ (PN) DI= 父 さん= オジ= マット (PN)
 ウィーラの父は、マットおじさんだ。
- 922 ?i= ta= maC ?i= ta= k^ha.nom di= ^hma.dioŋ//
 さん= オジ= マット (PN) さん= オジ= カノム (PN) DI= 兄姉
 マットおじさんは、カノムおじさんの兄だ⁽¹⁶⁾。
- 923 ta= k^ha.nom luŋ ?i= ta= maC py? do+mΛ- jioŋ
 オジ= カノム (PN) と さん= オジ= マット (PN) 持つ 同じ (だけ+・)- 父
 do+mΛ- ?uy//
 同じ- 女
 カノムおじさんとマットおじさんの父と母は同じだ。
- 924 ya= la.na di= jioŋ ?i= ta= k^hioŋ//
 オバ= ラナー (PN) DI= 父 さん= オジ= キン (PN)
 ラナーお婆さんの父は、キンおじさんだ。
- 925 ?i= ta= k^hioŋ kə ?i= suan di= jioŋ//
 さん= オジ= キン (PN) TOP さん= スアン (PN) DI= 父
 キンおじさんも、スアンの父だ。
- 926 ?i= suan pa- dioŋ ?i= ya= la.na//
 さん= スアン (PN) CAUS- 兄姉 さん= オバ= ラナー (PN)
 スアンは、ラナーお婆さんを姉とする。
- 927 ?i= ya= la.na luŋ ?i= suan do+mΛ- jioŋ// ki.be
 さん= オバ= ラナー (PN) と さん= スアン (PN) 同じ- 父 しかし
 hak+mΛ- ?uy//
 別々の (一方で+-) 女
 ラナーお婆さんとスアンは、同じ父を持つが、母は違う。

オレンジとジャックフルーツ

- 928 ?i= kic si= pxy ple? pyeI//
 さん= キット (PN) 欲しい= 食べる. 実 実 オレンジ
 キットはオレンジを食べたかった。

- 929 ʔak= jioŋ tɔŋ pleʔ pyɛl h¹lak/ ki.be h¹nun pɔʔ//
 ART= 父 言う 実 オレンジ ない しかし ジャックフルーツ ある
 その父が「オレンジはないがジャックフルーツはあるよ」と言った。

トカゲ

- 930 ta= yoʔ jak kwel^h pye ʔa= ʔday sɔŋ= klɔʔ//
 オジ= ヨ (PN) 行く 狩り トカゲ PRF= 得る 二= CL. 人以外
 ヨおじさんがトカゲを狩りに行き二匹捕まえた。
- 931 mlaʔ mak boŋ pye//
 ムラブリ 好き 食べる トカゲ
 ムラブリはトカゲを食べるのが好きだ。
- 932 ki.be mlaʔ ʔa.rəm= mak k^hay pye/ ʔec sa.taŋ seʔ//
 しかし ムラブリ かなり= 好き 売る トカゲ 取る 金 多い
 だけど、トカゲは高く売れるので、売るほうがもっと好きだ。

盗難事件

- 933 k^hu caʔ k^hay gruɣ//
 先生 チャ (PN) 売る 物
 チャ先生は物を売っている。
- 934 k^hu caʔ pɔʔ geŋ k^hay gruɣ ni= roŋ.rian//
 先生 チャ (PN) 持つ 家 売る 物 LOC= 学校
 チャ先生は学校に売店を持っている。
- 935 pɔʔ mɔ= kiʔ/ k^hu caʔ ʔa= leh ni= ran k^hay gruɣ hik=
 持つ 一= 月 先生 チャ (PN) PRF= 来る LOC= 店 売る 物 とても=
 duʔ.lon//
 驚く
 一カ月前、チャ先生は売店に来てとても驚いた⁽¹⁷⁾。
- 936 ʔak= na.taŋ ʔa= pɔt//
 ART= 窓 PRF= 開く
 その窓が開いていた。
- 937 tə.mlaʔ sa.k^huɰ blak ti.nay//
 誰 はがす 入る 内
 「誰が窓を外して内に入ったんだろう？」

- 938 grux^hlak[?]day/ sa.taŋ^hlak[?]day//
 物 ない (可能) 金 ない (可能)
 「物がなくなっているかもしれないし、金がなくなっているかもしれない⁽¹⁸⁾。」
- 939 tə.mlaʔ[?]ʔɤh//
 誰 する
 「誰のしわざだろう？」
- 940 mlaʔ[?] kə.lɤʔ// mɛw kə.lɤʔ//
 ムラブリ か フモン か
 「ムラブリだろうか？ フモンだろうか？」
- 941 mlaʔ[?] ʔa.do= nən hik= ʔdɔy/ kə.lay= mɔc grux[?] sa.k^huɤh na.taŋ//
 ムラブリ (蓋然)= 寝る ととも= 熟睡 IPRF= 見える 音 はがす 窓
 ムラブリは熟睡していただろうから、窓を外す音には気づかなかった。
- 942 ʔi= ta= k^ham ʔa= leh ruɤh na.taŋ sam ʔɤh də.lay=
 さん= オジ= カム (PN) PRF= 来る 外す 窓 再び 作る (義務)=
 pyaʔ+kleh//
 良い (大きな+固い)
 カムおじさんが来て窓を外し、再び作り直したので、きっと良いはずだ。
- 943 k^hit -ʔdɤ/ si= ʔday blɔk ma lɔy grux[?] luŋ sa.taŋ blɔk kə.bɔ=
 考える -INDF 欲しい= 得る 入る 来る 盗む 物 と 金 入る NEG1=
 ʔday//
 (可能)
 きっと物と金を盗みに入ろうとしても、無理だろう。
- 944 na.taŋ luŋ pa.tu ʔa= pit hik= kleh//
 窓 と ドア PRF= 閉まる ととも= 固い
 窓とドアはしっかり閉まっているからね。

記号・略号一覧

記号	名称
.	形態素内の音節境界
-	接辞境界
=	小辞境界
+	複合語境界
/	節境界
//	文境界
1	一人称
2	二人称
3	三人称
ART	冠詞 (article)
CAUS	使役 (causative)
CL	類別詞 (classifier)
CLC	集合 (collective)
COMP	補文節導入辞 (complementizer)
DAT	与格 (dative)
DEM1	近称の指示詞 (demonstrative)
DEM2	遠称の指示詞 (demonstrative)
DI	(所有)、(目的)、(再帰)を表しうる小辞
DU	双数 (dual)
INDF	不定辞 (indefinite marker)
INT	感嘆詞 (interjection)
IPRF	未完了相 (imperfect)
LOC	場所格 (locative)
NEG1	動詞と使われやすい否定辞 (negative)
NEG2	形容詞と使われやすい否定辞 (negative)
ONOM	擬音語・擬態語 (onomatopoeia)
PL	複数 (plural)
PN	人名 (personal name)
PRF	完了相 (perfect)
PROG	進行相 (progressive)
REL	関係節導入辞 (relativiser)
SFP	文末詞 (sentence final particle)
SG	単数 (singular)
TOP	話題化標識 (topic marker)

〔注〕

- (1) 本論文を故・坂本比奈子先生に捧げる。調査に協力していただいたムラブリの皆様、また、本稿の掲載を快諾していただいた麗澤大学大学院言語教育研究科に感謝を申し上げます。なお、本稿は日本学術振興会(課題番号「254309」、課題番号「242195」)による研究成果の一部である。
- (2) A方言、B方言の話者数についてはNimonjiya (forthcoming) を参照した。C方言の話者数については二〇一三年九月に伊藤がラオスのサイニャブリー県観光局に確認した情報である。
- (3) 本稿は、坂本先生と親交の深かった New Tribes Mission のブンジューン氏とワサナ氏からの追悼文を掲載している(本稿末尾を参照)。ブンジューン氏とワサナ氏は一九七八年に New Tribes Mission によってタイに派遣され、一九八一年からムラブリに関するプロジェクトを開始、ムラブリの国籍獲得などに尽力された。現在もファイ・ホーム村に居を構え、ムラブリの支援を続けておられる。
- (4) ただし、録音された日時は不明である。
- (5) 現在ウィーラ氏はプーファー開発センターに住んでおり、接触するのが難しい状態となっている。プーファー開発センターの状況については坂本(2011)を参照されたい。
- (6) あらかじめ用意されたテキストを記憶してもらい、それを暗唱してもらったためだと推測される。
- (7) 節、文の単位認定については、本稿ではイントネーションと意味のまとまりから行っている。しかし、この認定はまだ厳密なものではない。厳密な節、文の定義は今後の課題とする。
- (8) 856 に見られる人名の「ウィーラ」と「マツトおじさん」は、元のテキストではそれぞれ「イ・ウィーラ」と「タ・マツト」になっている。元のテキストに見られる「イ」や「タ」は、前者は日本語の「さん」、後者は「おじさん」などに相当する敬称辞であり、固有名の如く扱うことは誤解を招くと考えたため、訳出を前述のように変更してある。また「おばさん」にあたる敬称辞「ヤ」も存在し、これも同様に「おばさん」と訳出している。
- (9) 867 は、動作者の「よそ者」が動詞「来る」よりも前にきており、構成素順が転倒している。これは「存在文」と解釈する。詳しくは伊藤 (forthcoming) を参照されたい。
- (10) 869 では、日本語訳の後半部分、「よく切れるからだ」の「から」に対応する要素がムラブリ語には見いだせない点に注意されたい。ムラブリ語では二つの節が並列される時、後ろに置かれた節が前の節の原因、理由を表すことが分かっている。以上の理由から、869 は「よく切れるからだ」という日本語訳を与えてある。
- (11) 871 において、坂本(2005: 228)では、後半部分が「... 一頭のアナグマをムラブリ族に売りに来た。」と訳されている。しかし、「一頭のアナグマ」と解釈するには、数詞「一」 *may* の後に類別詞が表れなければならないが、871 の例文では類別詞は現れていない。よって、筆者らはこれを数詞「一」と同形の三人称・単数の人称代名詞と解釈し、「よそ者」を照応していると解釈した。

- (12) 874では、「食べる.肉」というグロスが見られる。これは、ムラブリ語には日本語の「食べる」に相当する形態素が三種類存在し、食べる対象、すなわち「肉類」、「果実類」、「米類」によって使い分けられるためである。肉類は *boŋ* (874、902、931)、果実類は *pyy* (928)、米類は *ʔɾʔ* を用いる。
- (13) 884の後部も、867同様「存在文」と解釈する。
- (14) 902も869と同じく、節の並列によって理由を述べていると解釈し、理由を表す「から」を訳に入れてある。
- (15) 907で、「バッグを作り終えた」という日本語に相当する表現が「作る+バッグ+アスペクト標識+死ぬ」と表現されている。この「死ぬ」を表す動詞は、「(動詞)+死ぬ」という動詞連続の後部要素として現れた場合のみ、「～し終えた」という意味に解釈されうる。
- (16) 922の ^hma.dij という形態素は坂本(2005: 239)では、‘a older full sibling’を意味する形態素であると記載されている。しかし、筆者らの調査では最も似たものとして=ma.dijがあるが、これは「年上の人」を意味する拘束形態素である。よって、^hma.dijの詳細は不明である。
- (17) 935では、数詞「一」*mA-*という形式が挙げられている。これは類別詞などと共起する場合のみに現れうる数詞「一」*moy*の異形態と解釈している。
- (18) 938において、元のテキストでは、「品物がなくなっていた、お金がなくなっていた。」とあるが、本稿では「(可能)」の^ʔdayに配慮した訳出を行った。

参考文献

(和文)

- 伊藤雄馬(2013)「ムラブリ語の人称表現における体系性と双数形の無標性」『京都大学言語学研究』32, 77-101.
- (forthcoming) 「ムラブリ語の文法スケッチ」『地球研言語記述論集』6.
- 坂本比奈子(2001)「ムラブリ族(黄色い葉の精霊)の現状と未来—危機言語と言語学者の役割—」『危機に瀕した言語について：講演集(三)』, 80-87.
- (2005) 『ムラブリ語テキスト』 *Endangered Languages of the Pacific Rim* A3-17.
- (2007a) 「森の人・ムラブリ」綾部恒雄(編)『失われる文化、失われるアイデンティティ』(講座 世界の先住民族—ファースト・ピープルズの現在 10). 東京: 明石書店, 44-57.
- (2007b) 「ムラブリ (Mlabri) 語の所有表現」『麗澤大学紀要』85: 45-70.
- (2011) 「ムラブリ族の移住」『言語と文明』9: 103-111.

（英文）

Chazée, Laurent (2001) *The Mrabri [sic] in Laos—A World under the Canopy*. Bangkok: White Lotus Press.

Nimonjiya, Shu (forthcoming) “Another History of Chao Khao: The Mlabri in Northern Thailand.” *Aséanie*.

Rischel, Jørgen (1995) *Minor Mlabri: A Hunter-Gatherer Language of Northern Indochina*. Copenhagen: Museum Tusulanum Press.

————— (2007) *Mlabri and Mon-Khmer—Tracing the History of a Hunter-gatherer Language*. Copenhagen: The Royal Danish Academy of Science and Letters.

Sidwell, Paul (2009) *Classifying the Austroasiatic Languages: History and State of the Art*. Muenchen: Lincom Europa.

Smalley, William A. (1963) “Notes on Kraisi’s and Bernatzik’s Word Lists” *Journal of the Siam Society* 51: 189–201.

The Lahu National Development Organization (2005) “No Place left for the Spirits of Yellow Leaves: Intensive logging leaves few options for the Mabri [sic] people.” *Undercurrents* 1: 16–18.

Tongkum, Theraphan L. (1992) “The Language of the Mlabri (Phi Tong Luang)” In: Surin Pookajorn and Staff (1992) *The Phi Tong Luang (Mlabri): A Hunter-Gatherer Group in Thailand*. Bangkok: Odeon Store, 43–65.

参考ウェブサイト

SIL International. *Mlabri* | *Ethnologue*. <<http://www.ethnologue.com/language/mra>>
(2014/1/16 最終アクセス)

付録

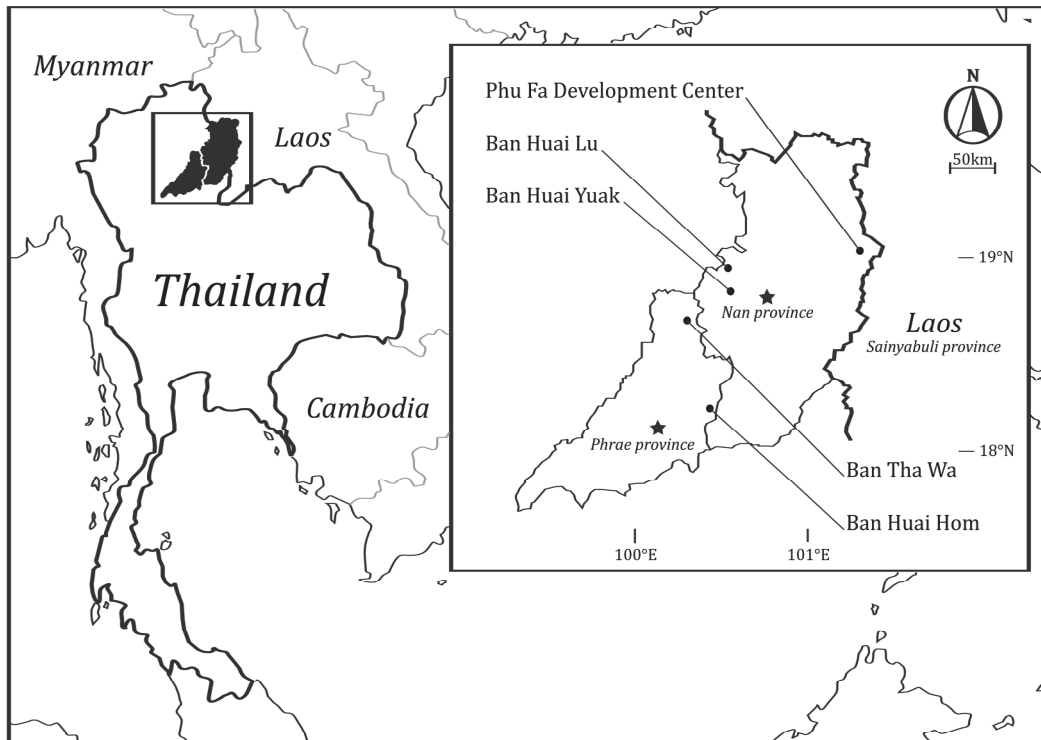


図1: タイ国におけるムラブリ A 方言話者の居住地 (Nimonjiya forthcoming)

追悼文

伊藤雄馬

2008年12月下旬、坂本先生のムラブリ語調査に、私は無理を言って同伴させていただいた。先生の研究室の学生でもなく、タイ語もムラブリ語も全く話せない私は、坂本先生の貴重な調査時間を奪う厄介者であったろう。しかし、坂本先生は私の同伴を快諾してくださった。それだけでなく、坂本先生は調査後のデータ整理時間を削ってまで、私の拙い調査に対して様々なコメントをしてくださった。夕食後にコーヒーを飲みながら行われたその「反省会」では、坂本先生から私の無計画さに対する率直で厳しい意見をいただいた。その厳しいコメントにはいつも真っ直ぐな教育的配慮が込められていた。そして今振り返れば、ムラブリ語研究を継いで欲しいという、私への期待も込められていたのだろうと思う。

調査後半での「反省会」で、坂本先生は突然、『ムラブリ語テキスト』は満足のいく出来栄でないこと、そしてその改訂をいつか私にしてもらいたいのだが、ということ、ぼつりと呟かれた。その時は、まだ私には難しいからとお断りした。坂本先生もそれ以上は何も言われず、ただ笑って返された。このやり取りを思い出したのは、それからちょうど5年後の2013年12月下旬、坂本先生が2013年11月13日に亡くなられていたという訃報に接した折であった。これが、この追悼論文執筆の経緯である。

この追悼論文では、坂本先生の『ムラブリ語テキスト』の改訂を試みた。その過程で、私がいかにムラブリ語のことを何も知らないか、痛感させられた。私は、坂本先生のあの教育的配慮にもう一度接することができたのである。全く、坂本先生は私にとって先生であった。ここに、感謝と畏敬の念を持って、ご冥福をお祈りいたします。

二文字屋脩

最初に坂本先生にお会いしたのは、東京都中央区にあった先生のご自宅である。2010年4月、博士後期課程をスタートさせた私は、人類学者の登竜門である長期のフィールドワークをどこで行うか迷っていた。そんな折、タイの少数民族であるリス族を長年研究されている綾部教授（首都大学東京）にムラブリを紹介された。すぐさま私はムラブリについて調べ始め、坂本先生の存在を知ることとなった。早速、坂本先生に手紙を送ると、「ムラブリのことをお話するのはとても嬉しい」とおっしゃっていただき、ご自宅に招いてくださった。また先生のご好意で、伊藤雄馬君とも先生のご自宅で会うことができた。既にムラブリ語について研究していた伊藤君とは異なり、ムラブリについて何も知らない私は、ただただ坂本先生と伊藤君の話の聞いているだけであったが、二人と話しているうちに、実際にムラブリを訪ねてみたいと思い、そのことを先生にお伝えした。すると、先生は「じゃあ今年の夏にでも、みんなで行きましょう」と仰ってくださった。そして同年8月、私は坂本先生とチェンマイで待ち合わせをし、ナーン県とプレー県にあるムラブリの村を訪ねた。道中、ムラブリについて様々なことを熱心に、そして丁寧に話してくださった先生の横顔は今でも鮮明に覚えている。しかし誠に残念ながら、この短期調査が、先生とお

会いする最後の機会となってしまった。

私たちは坂本先生の逝去に酷く落ち込んだが、しかし「先生がやり残された仕事を引き継ぐのが私たちの新しい使命なのではないか」と考え、『ムラブリ語テキスト』の改訂に着手することとなった。この場を借りて、追悼論文として本稿を掲載することを快諾してくださった麗沢大学言語教育研究科には、厚くお礼申し上げます。そして坂本先生のこれまでの導きに心より感謝し、安らかに眠りにつかれる事をお祈り申し上げます。

Bunyuén and Wasana Suksaneh

Professor Hinako Sakamoto was a valued friend, dedicated scholar and true humanitarian. Her love for people as fellow human beings and not just objects of study, the respect she showed for all people and her deep concern to see minority languages preserved all made her an exemplary researcher.

She was intimately familiar with the lives and interests of a wide range of cultures, both Asian and European. No detail was too small for her, no subject too vast. A tiny lady with impeccable manners, she was at home among farmers, scholars and gentry.

Although she was almost old enough to be our mother, she treated us as colleagues and friends, an honor we will always treasure.

She will be missed by all who knew her, and the scholarly world is poorer by her passing, though even richer by the contributions of her life. It is to be hoped that her altruistic approach to language will live on in the many students who were privileged to study under her careful tutelage.